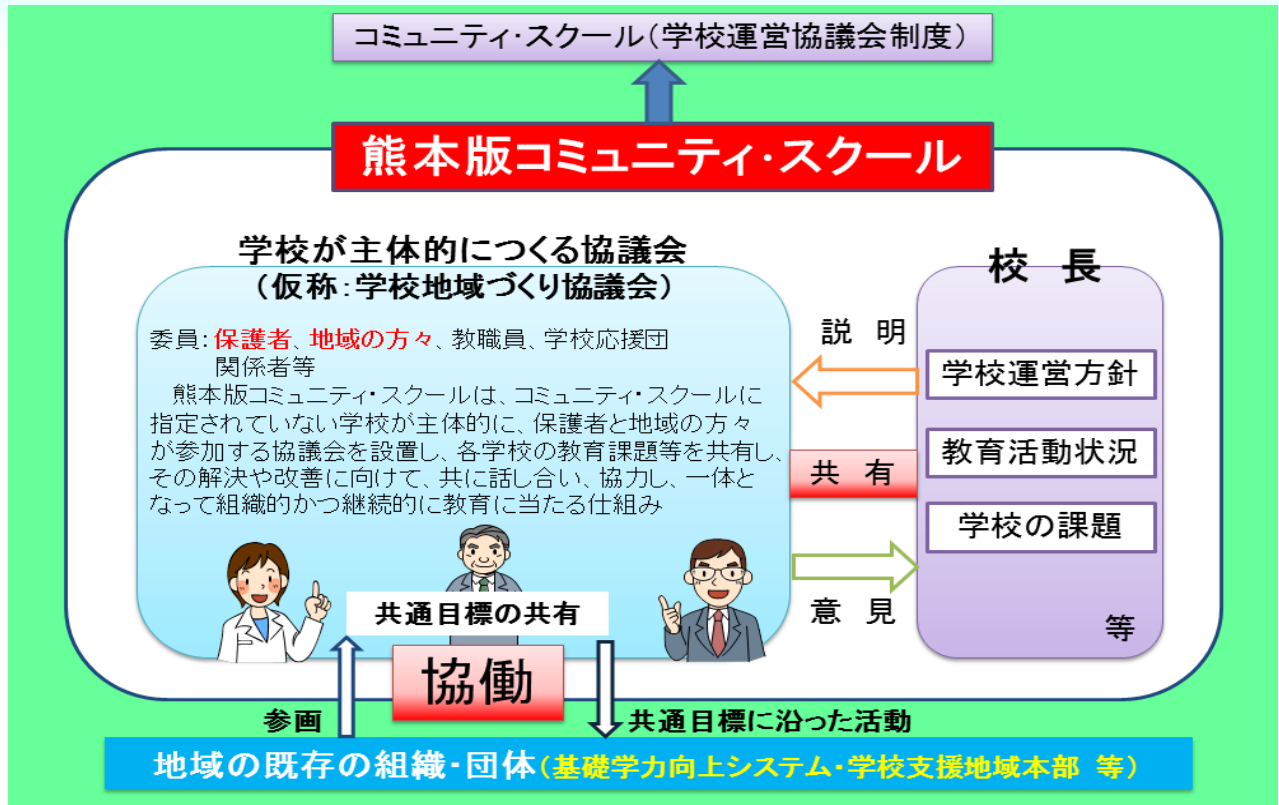


地域と共に創る 熊本版コミュニティ・スクール

～学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育の実現を目指す～



社会がますます複雑多様化し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化する中で、これからの学校はこれまで以上に家庭、地域との連携・協力のもとに教育を進めていくことが重要です。

本県では、熊本県教育振興基本計画「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」に基づき、コミュニティ・スクールの導入等、開かれた学校づくりを積極的に推進しています。その一層の推進に向けて、コミュニティ・スクールへの移行を視野に入れ、保護者や地域の方々と連携・協働して、子どもたちの成長を支えていく学校の仕組みとして「熊本版コミュニティ・スクール」を提案します。

熊本版コミュニティ・スクールとは、コミュニティ・スクールに指定されていない学校が主体的に、保護者と地域の方々に参加する協議会(名称は各学校で工夫を!)を設置し、各学校の教育課題等を共有し、その解決や改善に向けて、共に話し合い、協力し、一体となって組織的かつ継続的に教育に当たる仕組みのことです。

すべての学校が、この仕組みの導入を通して、保護者や地域の方々と共に、地域に開かれ信頼される学校づくりを目指しましょう。

平成25年3月
熊本県教育委員会

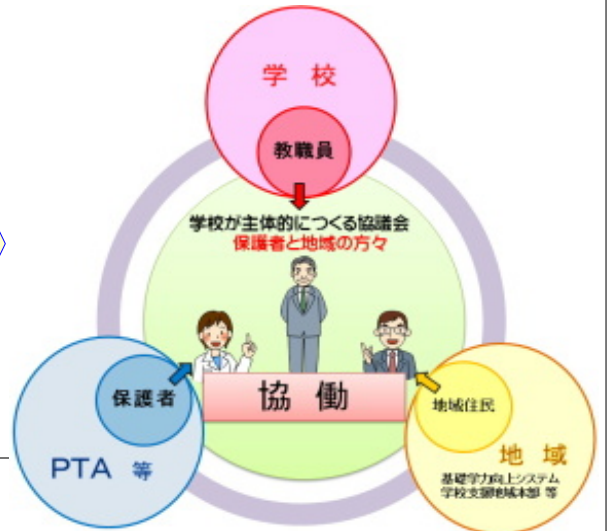
熊本版コミュニティ・スクールの協議会の設置

協議会設置に向けて

まずは協議会の構成メンバーを考える！

- 協議会のメンバーには、保護者と地域住民の方々に参加していただくこと
- 地域の既存の組織や団体等の協力を得て、学校や地域の実態に応じた無理のない構成を考えること

協議会の設置イメージ(例)



メンバー構成例

教育上の課題解決や学校の教育活動の改善、学校運営方針に応じたメンバー構成も考えられます。



地域住民

- 市町村教育委員会の承諾を得て、学校評議員に協力をいただくことも考えられます。
- 基礎学力向上システムや学校支援地域本部等、既存の組織や団体のコーディネーターに参加していただくことにより、より一体となった取組につながります。

保護者

- PTAの協力を得て、その代表に参加していただくことも考えられます。

研究指定校 の実践例

既存の組織を生かした協議会設置

益城町立益城中央小学校

協議会メンバー13人:ボランティアグループリーダー、町ボランティアコーディネーター等

益城中央小学校では、これまで取り組んできた学校支援地域本部の組織からコーディネーター等を協議会委員に位置付け、教育活動の充実について研究を深めています。

○ 学校運営方針の周知と共有

協議会の中では、特に「学校の教育目標やそのための取組が分かりにくい。」との意見が出されました。

そこで、学校では、「ひとみきらきら」、「こころほのぼの」、「げんきもりもり」、「ふるさとすきすき」などのキーワードで目指す児童像を示し、授業参観等を活用して、具体的な子どもの姿を通して理解を得るよう努めました。

その取組が、子どもたちをサポートする地域の方々や保護者によるボランティアへとつながり、今では、協議会を通して、さまざまな学校支援活動に広がっています。



協議会の話し合いの様子

コミュニティ・スクールは、法令により、市町村教育委員会が学校を指定します。また、それにより指定された学校に設置された学校運営協議会には、さまざまな権限が与えられています。

熊本版コミュニティ・スクールは、その権限と要件を緩和し、すべての学校が保護者と地域住民が参加する協議会を設置できるようにしたものです。このようにして設置される協議会の運用については、各学校が独自に定めることができます。

課題の共有・課題解決に向けた協議

協議会の開催

協議会では、保護者や地域の方々と課題や情報を共有し、みんなでよりよい考えを出し合い、共に教育に当たっていくことが大切です。

そして、共有した課題等の改善に向けて、学校・家庭・地域が、それぞれの立場で何ができるのかを協議し、協働していくことが必要です。

学校運営方針の周知と共有

- 学校教育目標の説明、意見交換等

学校の課題や情報等の共有

- 学校の課題
- 地域や保護者の願いやニーズ
- 学校評価の状況
- いじめ等の情報 等

課題解決に向けた協議

- 学校の課題解決に向けた取組
- より充実した教育活動の在り方 等

課題解決に向けた連携・協働

教育活動の充実・学校支援

協議会での話し合いをもとに、学校の課題の解決に向けて、可能なところから始めましょう。

- 学校の課題解決に向けて、だれが、いつ、どのような支援・協働ができるのかについて、協議会の方針のもと、一体となって考えて、取り組みましょう。
- 基礎学力向上システムや学校支援地域本部、PTAの組織等を生かして、必要な部会を設けることも検討しましょう。
- 課題解決のための効果的な連携先を協議会で検討し、連携して取組を進めましょう。
- 継続的な支援や取組がなされるよう、無理のない計画を立てましょう。

☘ 協議会で話し合った、

共通の目標に向かって
◇ 学校でやるべきこと
◇ 家庭でやるべきこと
◇ 地域でできること

等について、それぞれの立場で、連携・協働して取組を進めましょう。

研究指定校 の実践例

協議会における教育ビジョンの共有

上天草市立姫戸小学校

協議会メンバー21人:PTA代表、各種団体代表、学校評議員、主任児童委員、地域教育コーディネーター等

姫戸小学校では、協議会にPTA代表や学校評議員、地域の各種団体の代表を委員として位置付け、よりよい教育の方向性について、研究を深めています。

○ 学校の課題や情報等の共有

協議会では、「学校と地域が一体となって子どもたちを育てていく」ことが確認されました。そして、学校の課題等の解決に向けて、次のことを協議し、地域の教育力を生かした取組を進めています。

- 地域全体で「どんな子どもたちを育てていきたいか。」を明確にする作業を進める。
- 子どもの学習意欲の向上のために、地域や保護者の活動機会を増やす。
- 地域との連携方法をコミュニティだよりで募集し、実践につなげる。 等



放課後の学習支援

熊本版コミュニティ・スクールQ&A

Q1 学校評議員と学校運営協議会は、どのように違うのですか？

学校評議員は、校長の求めに応じて、個人としての立場で、学校運営に関する意見を述べるものです。一方、学校運営協議会は、保護者や地域の方々などが、一定の権限と責任をもって学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりすることを通じて、学校のさまざまな課題解決に参画する合議制の会議体です。

学校評議員制度	学校運営協議会制度
○関係法令 学校教育法施行規則第49条	○関係法令 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5
○位置付け 校長が、必要に応じて学校運営に関する保護者や地域の方々の意見を聞くための制度。	○位置付け 教育委員会により設置され、学校の運営について、一定範囲で法的な効果を持つ意思決定を行う合議制の機関。

Q2 コミュニティ・スクールと熊本版コミュニティ・スクールの違いは何ですか？

学校と地域の方々が、学校の教育目標や課題について共有し、それぞれの立場で主体的に子どもの教育に関わっていくというねらいは同じです。

ただし、コミュニティ・スクールは法律に則り市町村教育委員会が学校運営協議会を設置するのに対して、熊本版コミュニティ・スクールは学校が主体的に、協議会を設置するものです。熊本版コミュニティ・スクールでは、コミュニティ・スクールに関して法律に定められている要件や権限を緩和し、すべての学校で開かれた学校づくりの仕組みを整えることができます。

	コミュニティ・スクール	熊本版コミュニティ・スクール
規則や要項等	市町村教育委員会が規則で定める	各学校が実態により要綱等を作成
協議会等	学校運営協議会 (市町村教育委員会が設置)	仮称：学校地域づくり協議会等 (各学校が実態により設置)
委員	市町村教育委員会が任命 (保護者及び地域住民 等)	各学校が依頼 (保護者及び地域住民 等)
権限や役割等	① 校長の運営方針の承認 ② 学校運営に関する意見 ③ 教職員の任用に関する意見	① 学校運営方針の周知と共有 ② 学校の課題や情報等の共有 ③ 課題解決に向けた協議

Q3 学校支援地域本部とコミュニティ・スクールの違いは何ですか？

学校支援地域本部は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織で、いわば地域につくられた学校の応援団といえます。その支援により、地域の教育力向上、生涯学習の視点から、①教員が子どもと向き合う時間が増える、学校や地域の教育活動の更なる充実、②地域住民が自らの学習成果を生かす場の広がり、③地域の教育力の向上などが期待されます。

コミュニティ・スクールは、開かれた学校づくりの視点から、保護者や地域の方々が参加する学校運営協議会を設置し、一定の権限と責任をもって学校の様々な課題解決に参画する仕組みです。

お問い合わせ先

熊本県教育庁教育指導局義務教育課義務教育指導係

〒862-8609 熊本市中心区水前寺6丁目18番1号

TEL 096-333-2688 / FAX 096-385-6718

<http://kyouiku.higo.ed.jp/>